



テンパス

TEMPUS

2024年(令和6年) **81**号

◁伊能忠敬肖像画
(千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵)



香取市「完全復元伊能大図パネル展」設置の
伊能大図パネルの貝塚周辺部分



☆天測(天体観測)地点



△岩橋善兵衛銅像
(善兵衛ランド展示)

も く じ

岩橋善兵衛と伊能忠敬

重要文化財 願泉寺表門の整備事業が完了しました

／ 貝塚市文化財保存活用地域計画策定事業
ワークショップを開催しました

和泉葛城山ブナ林国天然記念物指定100周年記念行事

シンポジウム「和泉葛城山ブナ林 これまでの100年
これからの100年」を開催しました

／ 和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキングを実施しました

中央小学校で地域学習を行いました

／ 二色小学校の3年生・4年生がむかしの道具の見学と体験を行いました

古文書講座－市内に残る身近な古文書－「江戸時代の縁組」

／ 古文書講座72(通算340回～344回)開催のお知らせ

貝塚市歴史展示館(ふるさと 知っとこ!館) ニュース

岩橋善兵衛（いわはしぜんべえ）と伊能忠敬（いのうただたか）

貝塚市が生んだ江戸時代の科学者、岩橋善兵衛（1756～1811年）は、当時日本一性能の良い望遠鏡を製作しました。善兵衛は生涯を通じて数多くの望遠鏡を製作しましたが、現存する望遠鏡の中で、正確な日本地図を作ったことで知られる伊能忠敬（1745～1818年）が全国測量で用いた観星鏡（かんせいきょう、天体望遠鏡）2台（千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵、右写真）は国宝「伊能忠敬関係資料」に指定されています。本号では、善兵衛の望遠鏡がつないだ善兵衛と忠敬の関係について紹介します。



観星鏡（大）と接眼レンズ（吹き出し拡大）
写真提供：伊能忠敬記念館

善兵衛の望遠鏡と寛政の改暦

1756（宝暦6）年、岸和田藩領内の脇浜新町（現在の貝塚市新町）に生まれた岩橋善兵衛は、独立後、眼鏡の玉（レンズ）磨き職人として生計を立てながら天文暦学を中心とした学問を学びました。そして、1793（寛政5）年、自作の望遠鏡「窺天鏡」（きてんきょう）を完成させ、自ら京都や大坂（大阪）に出向いて当時の学者や知識人たちを集めた天体観測会を行うことで、その望遠鏡の性能を宣伝しました。

ちょうどこの頃、幕府によって西洋天文学を取り入れた改暦事業（寛政の改暦）が計画されました。広く人材を求めた結果、1795（寛政7）年、大坂の天文学者麻田剛立（あさだごうりゅう）門下であった武士の高橋至時（たかはしよしとき）が幕府天文方（てんもんかた）として、また商人の間重富（はざましげとみ）が改暦御用（かいれきごよう）として抜擢され改暦事業が進められました。



高橋至時 ・ 間重富

善兵衛ランドキャラクター

この改暦事業では、正確な暦を作るために天体観測が不可欠でした。そのため、性能の良い善兵衛が製作した望遠鏡が重富 - 至時ルートで江戸浅草竹町（現在の東京都台東区）にあった幕府の天文台「司天台（してんだい）」に設置されました。そして、同じルートで至時周辺の幕府に仕える人びともにも提供される中、至時に師事した伊能忠敬の手にも善兵衛の望遠鏡が渡ったのでした。

伊能忠敬と善兵衛の望遠鏡

1745（延享2）年、上総国山辺郡小関村（現在の千葉県山武郡九十九里町）に生まれた伊能忠敬は、1762（宝暦12）年、下総国香取郡佐原村（現在の千葉県香取市）の酒造家伊能家に婿入りし、商人や佐原村の名主（なぬし）としてこの地で30年余りの前半生を過ごしました。1794（寛政6）年、家督を長男に譲り、翌1795年、江戸へ出た忠敬は19歳年下の高橋至時の弟子となりました。



伊能忠敬旧宅 千葉県香取市

至時に弟子入りした忠敬は、寝る間も惜しんで天文暦学や測量学などの勉強に励みました。天体観測についても教えを受けた忠敬は、観測技術や機器に精通していた間重富を通じて観測機器を購入し、自宅に天文台を作りました。おそらく、この天文台には様々な観測機器とともに岩橋善兵衛が製作した望遠鏡が設置されていたと考えられます。善兵衛の

望遠鏡は忠敬が全国測量に出発するまでの約6年間、悪天候の日を除いて昼夜を問わず毎日行われたといわれる天体観測で活躍したと思われます。

忠敬が最初の**全国測量**に出発したのは、1800（寛政12）年の蝦夷地（えぞち、現在の北海道）測量でした。この測量は、名目上はたびたびのロシア船の来航により緊張状態にあった蝦夷地の正確な地図を作成することが目的でしたが、忠敬と至時のより正確な暦を作成するために必要な**地球の大きさを計ること**、そのために**緯度1度分の正確な距離を測ること**でした。そのため、測量隊一行は荷物を船で運べる海路を使わず、陸路を測量しながら進み、夜は天体観測を行うという毎日でした。測量隊が持参した観測機器には、善兵衛が製作したものかと思われる天体観測用の「星鏡」2本（国宝の「観星鏡」と同じものだと思います）と「望遠鏡」2本が含まれており、毎日の測量と天体観測で活躍したと思われます。



伊能忠敬

善兵衛ランド
キャラクター

伊能忠敬測量隊による貝塚周辺の測量

伊能忠敬による全国測量は足掛け17年、全10次に分けて行われました。その中で貝塚市域を含む和泉国の沿岸部の測量は、1805（文化2）年2月から翌1806年11月にかけての近畿・中国の測量、**第5次測量**の中で行われました。

忠敬の測量日記によると、**1805年8月16日、「尾崎村」（大阪府阪南市）から「岸和田城下」（大阪府岸和田市）**までの沿岸部の測量が行われました。測量隊は二手に分かれ、忠敬を含む「後手」（後発隊）6名が尾崎村から「佐野村」（大阪府泉佐野市）までを、「先手」（先発隊）5名が佐野村から岸和田城下までの測量を行い、一行は「岸和田北ノ浜、春木屋吉蔵」宅に宿泊しました。岸和田藩（当時の藩主9代岡部長慎（ながちか））は、目付役ほかの役人たちが「樽井村」まで挨拶に出向いたほか、城下の町年寄や庄屋たちも測量隊を出迎えました。また、貝塚ト半寺内（ぼくはんじない、貝塚寺内町）からは「**貝塚村ト半真教院家来久保権平、高林与兵衛**」の2人が先発隊の「見舞」い（挨拶）に出向きました。

残念ながら測量中に忠敬と善兵衛が接触した記述は見られませんが、測量隊は紀州街道沿いの脇浜新町から目と鼻の先の脇浜浦を測量しながら、貝塚浦、津田浦と北上していったのでした。

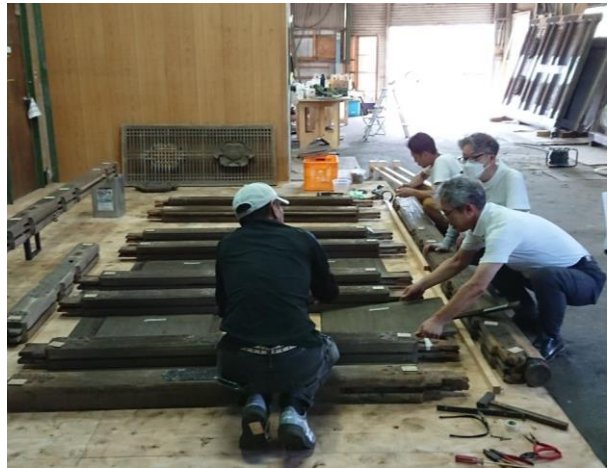
岩橋善兵衛と伊能忠敬は歴史上直接接触することはありませんでしたが、時代の要求に応じて製作された善兵衛の望遠鏡が忠敬の功績を下支えしたことは今回紹介した通りです。貝塚市では、善兵衛の顕彰施設である善兵衛ランドを中心に、令和5年度から忠敬の顕彰施設である伊能忠敬記念館のある千葉県香取市との連携事業を進めています。

令和5年度は、6月に本市より酒井市長ほか4名が香取市を訪問し、貝塚市と善兵衛ランドのPRを行いました。11月には香取市より伊能忠敬記念館館長ほか3名が本市を訪問し、善兵衛ランドで伊能忠敬記念館の協力を得て企画展「善兵衛と伊能忠敬」展（11月2日～19日）と、郷土資料展示室の特集展示「古文書に見る岩橋善兵衛」（11月1日～12月24日）を観覧しました。

善兵衛の望遠鏡がつないだ郷土の偉人の関係をもとに、今後も両市の交流をさらに深めていきたいと考えています。

重要文化財 願泉寺表門の整備事業が完了しました

貝塚市中町に所在する願泉寺は、貝塚寺内町の中心寺院であり、地元では「ぼっかんさん」（名字にちなんで）の名で親しまれています。境内には歴史的な建造物が残されており、本堂、太鼓堂、表門は1993（平成5）年に大阪府内の浄土真宗寺院として初めて国の重要文化財に指定されました。2004（平成16）年から約7年間をかけて、大規模な修理事業が行われたことを記憶されている方も多いのではないのでしょうか。今回ご報告するのは、令和5年4月～11月に国の補助事業として実施された表門の整備事業です。



解体した扉を前に修理方法を検討中

通りに面した表門は、まさに願泉寺の顔というべき建築ですが、最近、扉の開閉に支障が生じており、かんぬきも通りにくくなっていました。適切に整備をしなければ、不具合がさらに悪くなる恐れがあります。そこで門の状態を調べたところ、幸いにも門そのものに大きな傷みや傾きはなく、長い年月のうちに扉が歪んだのが原因とわかりました。扉は多くの部材を組み合わせて作られていますので、扉を取り外して解体し、傷んだ部材を修理した上で再度組み立て、元の位置に戻す整備工事を実施しました。工事は7月から始まり、専門の職人の手により修理されて、11月に無事完了しました。

貝塚寺内町にお越しになるときは、ぜひ整備が済んだ表門をご覧ください。

貝塚市文化財保存活用地域計画策定事業

ワークショップを開催しました



地域の魅力を語り合います

本紙77号でご報告したように、本市では文化財の保存・活用を積極的に進めるために「貝塚市文化財保存活用地域計画」の作成に取り組んでいます。この地域計画に、住民のみなさんの意見を反映するため、令和5年9月9日・16日・30日の各土曜日に、市域の歴史文化や魅力を伝えるための方法を考えるワークショップを開催しました。

第1回は貝塚寺内町のまちあるきを実施し、ふだん見過ごしがちなまちの魅力について意見交換をしました。第2回は、参加者をご存じの地域での言い伝えやあまり知られていない歴史文化を紹介し、その魅力を語り合いました。第3回はこれまでの総括として、地域の歴史文化の魅力を伝えるための方法やアイデアについて語り合いました。3回連続の企画であったにもかかわらず、18名もの応募があり、毎回活発な議論をいただきました。貴重なご意見を地域計画に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

シンポジウム「和泉葛城山ブナ林 これまでの100年 これからの100年」を開催しました



パネルディスカッションのようす

5 年 8 月 26 日（土）に、記念シンポジウム「和泉葛城山ブナ林 これまでの100年 これからの100年」を開催しました。

会場は、大阪市東住吉区の長居公園にある大阪市立自然史博物館の講堂です【左上写真】。また、きしわだ自然史資料館をサテライト会場として、YouTubeでの同時配信を行いました。シンポジウムは、まず基調講演として、文化庁の田中厚志文化財調査官より「天然記念物ってなに？－天然記念物の保護の意味－」、京都大学の石原正恵准教授より「ブナ林に迫る危機と協働による保全」をお話いただいた後、国指定天然記念物と和泉葛城山ブナ林保護増殖委員会の佐久間大輔委員長（大阪市立自然史博物館学芸課長）をコーディネーターとするパネルディスカッションを行いました。

大変暑い日でしたが、92名の参加者があり、活発な議論がなされました。その様子は、大阪市立自然史博物館と大阪みどりのトラスト協会のYouTubeチャンネル（右QRコード）で公開されていますので、ぜひご覧ください。



和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキングを実施しました

令和5年10月21日（土）には「和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキング」を実施しました。和泉葛城山の自然に詳しい解説者とともに山頂までのハイキングとブナ林の散策を行う行事です。この秋は残暑が大変厳しかったにも関わらず、40名の募集枠いっぱいの応募をいただきました（当日参加は36名）。今回は蕎原道登山口より和泉葛城山頂を目指すコースです。

参加者は3班に分かれ、各班の解説員である奈良教育大学自然環境教育センターの松井淳特任教授、本市文化財保護審議会の田中正視委員、和泉葛城山ブナ愛樹クラブの土井雄一代表による詳しい解説を楽しみながら登山道を上がり【右上写真】、約3時間かけて全員山頂にたどり着きました。山頂では昼食をとり、一休みした後、岸和田市立きしわだ自然資料館の岡本素治館長からブナ林の解説をいただき【右下写真】ながら散策し、予定通り行事を終えることができました。

参加者の皆さんには、穏やかな天候に恵まれ、険しい登山道に苦戦しつつも楽しい一日をお過ごしいただけたものと思います。



皆で登山道を登っていきます



山頂付近では岡本館長に
解説いただきました

中央小学校で地域学習を行いました

令和5年9月29日（金）に中央小学校視聴覚室において、4年生99名を対象とする地域学習を行いました。事前に提出してもらっていた「貝塚市の歴史」に対するさまざまな疑問に応えるスタイルで、写真・図表などを用いて視覚的にとらえられるように進めていきました。



子どもたちからは、例えば「貝塚で一番古いものは？」という質問が出され、①「貝塚市内では南小学校とその近くの地藏堂周辺に多くの古墳が遺されていて、1600年以上も昔のものです」と伝えると「古墳はすごく古い」の声が上がりました。②「古い建物だと、孝恩寺観音堂（釘無堂）が700年以上前のもの」と言うのと「そんなに古いの」と驚きの声が広がりました。

子どもたちにとって、教科書からの知識ではなく、直接職員からの話を聞いて、地域に密着した歴史を実感できたことは、新鮮な経験になったのではないのでしょうか。

二色小学校の3年生・4年生がむかしの道具の見学と体験を行いました

令和5年10月12日（木）、二色小学校の3年生29名・4年生20名が、新町の国登録有形文化財南川家住宅を訪れました。南川家住宅では、所有者の南川孝司さんが収集したむかしの道具が展示されており、実物に触れて体験できる施設となっています。



卓袱台を囲んで、
むかしのアイロンなどを見る子どもたち

子どもたちは卓袱台（ちゃぶだい・丸い折りたたみ式のテーブル）、ひのし（むかしのアイロン）、下駄（げた）や草履（ぞうり）などのむかしのはきもの、ご飯を炊（た）く釜（かま）、ものさしやいろいろなはかりなどを見学して説明を聞いたほか、蚊帳（かや）の中に入ったり、ダイヤル式の黒電話を回したり、石臼を挽（ひ）いたりする体験をしました。石臼を挽く体験では、麦や大豆の代わりにコーヒー豆を挽きましたが、子どもたちからは「おもしろいけどずっと回していると手が疲れそう」「粉にするだけでこんなに大変だと初めて知った」などの声が上がりました。

また、見学の後、学校の先生からは、「4年生は、去年の社会科の学習で教科書に載っていたものや、お年寄りの方から聞き取ったものを実物として見たり触ったりすることができました。3年生は、3学期に行う社会科の学習（昔の暮らし）や、見学当時に学習していた国語に出てくる『石臼で挽く』という言葉の意味を、体験することができ、とても実り多い見学になりました」との感想をいただきました。

古文書講座

ー市内に残る身近な古文書ー

◆江戸時代の縁組

令和5年10月4日・11日・18日・25日、11月8日の水曜日と、10月6日・13日・20日・27日、11月10日の金曜日の2グループに分けて、「江戸時代の縁組」と題し、古文書講座を開催しました。

今とは制度やしきたりの異なる縁組の進め方について、当時の古文書を読み解きました。

江戸時代は、今の戸籍や住民票とは異なり、

寺請（てらうけ）制度と呼ばれる、人々がいずれかの寺院の檀家（だんか）となり、村ごとに人の移動を管理するしくみが取られていました。数年に一度は村人の実態と記録にズレがないか確認するため、各地の領主により宗門改（しゅうもんあらため）が実施されました。

講座の前半では畠中村（現在の貝塚市畠中）から金田村（かなたむら、現在の堺市北区金岡町ほか）への移動について寺から村へ届け出た「宗旨請状之事（しゅうしうけじょうのこと）」と、村どうしで伝えた「俗請状之事（ぞくしうけじょうのこと）」（以上、市指定文化財要家文書）の内容を掘り下げました。後半では、縁組の記録である「諸事控帳（しよじひかえちょう）」、「留帳（とめちょう）」（以上、吉村家文書）から、結納（ゆいのう）のようすや祝いの膳（ぜん）に出された献立（こんだて・今のような完成した料理名ではなく食材だけを記したもの）、祝儀などから、当時の縁組の進め方を見ていきました。

参加者の方からは「当時の縁組の段取りや様子が具体的にわかったように思います」、「今回のテーマは身近に感じるものが多く、わかりやすかったです」とのご感想をいただきました。



講座を聞き入る参加者のみなさん
（写真は6月の講座）

古文書講座72（通算340回～344回）開催のお知らせ

テーマ 岩橋善兵衛の望遠鏡と天文

日時 1班（水曜） 第1回 3月13日、第2回 3月27日、第3回 4月10日、
第4回 4月17日、第5回 4月24日

2班（金曜） 第1回 3月15日、第2回 3月29日、第3回 4月5日、
第4回 4月12日、第5回 4月19日

いずれも午後1時15分～3時45分

会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室

定員 各班40人（先着順）

資料代 200円

申込 希望する班・住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・
Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

岩橋善兵衛

善兵衛ランド
キャラクター



申込・問合せ先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）
社会教育課文化財保存活用室郷土資料室

T E L 072 (433) 7205 / F A X 072 (433) 7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）ニュース

○聖火リレートーチを持って記念撮影をしよう！

東京2020オリンピック聖火リレーで実際に使用されたトーチを持って記念撮影ができるフォトスポットを設置しています。撮影に必要なカメラやスマートフォンをご持参いただければ、貝塚市内での聖火リレーのコースに設置する予定だったバックパネルや、沿道を飾る予定だった旗などを背景に自由に撮影を行っていただくことができます。



※新型コロナウイルス等の感染症予防とトーチ保護のため、撮影前の手指消毒、撮影時の手袋着用その他、スタッフによる誘導を行う場合がありますので、ご理解の上、ご協力をお願いします。

なお、写真のように「つけさん」は常駐していません。あしからずご了承ください。

○第9弾マンホールカード「コスモス版」を配布中！（令和5年12月15日～）

マンホール蓋のコレクションカード「マンホールカード」の第9弾マンホールカード「コスモス版」を配布しています。カードは、1991（平成3）年から設置を開始した、貝塚市の花「コスモス」をあしらったマンホール蓋をデザインしたもので、無料で配布しています（配布は一人1枚、予約・郵送は不可）。

※貝塚市のマンホールカードは、最新の第21弾マンホールカード「市制施行80周年記念版」を南海本線貝塚駅改札前のまちの駅かいくつか（貝塚市観光案内所）で配布しています。



貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館） 貝塚市半田138-1

開館時間 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

休館日 火曜日、祝日（祝日が火曜日の場合は、その翌日も休館）、
年末年始（12月29日～1月3日）

アクセス JR阪和線「東貝塚駅」北西へ徒歩5分

南海本線「貝塚駅」からお越しの方は、は～もに～ばす（ピンクバス）
「貝塚市歴史展示館前」下車すぐ
お車でお越しの方は、市民庭園入口にある駐車スペース（4台分）をご利用ください。

かいづか文化財だよりテンプス81号



令和6年1月31日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email:bunkazai@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ

キャラクター

つけさん

貝塚市特産品「つけ
櫛」をモチーフとした
デザイン。